

【拡大版】佐久地域戦略会議 議事録

日 時：平成 29 年 6 月 1 日（木）午前 10 時から 12 時まで

場 所：佐久合同庁舎 5 階 講堂

○ 井出 地域振興局長

定刻となりましたので、ただいまから【拡大版】佐久地域戦略会議を開会いたします。

本日は、お忙しい中をお集まりいただき、誠にありがとうございます。司会進行を務めさせていただきます佐久地域振興局長の井出でございます。よろしくお願いいたします。

それでは会議に先立ちまして、阿部知事からごあいさつを申し上げます。

○ 阿部 知事

おはようございます。佐久地域の市町村長の皆様方には大変お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。また、平素から地域の発展、長野県政の推進に格別のご尽力、ご支援を賜っていますことを改めて御礼申し上げます。地元の県議会議員の皆様方にも本日はオブザーバーとして参加いただき大変ありがとうございます。本日は【拡大版】佐久地域戦略会議ということで、テーマは次の長野県総合 5 か年計画ということについて、市町村長の皆様から率直な意見をいただきたいと思っております。長野県は大きく変わっていかなくてはいけない時期であると考えています。人口減少社会というものはある意味定着してきた感がありますが、急激な人口減少には一定の歯止めをかけていく努力をしていかなくてはならないと思っております。また有効求人倍率も 1.4～1.5 と非常に高い水準になっておりますが、逆に雇用の場の創出という課題と併せて人手不足の解消であったりとか、雇用のミスマッチの解消であったりとかそうしたことが求められる時代になっていると思っております。

これから技術革新が進む中、20 年後あるいは 30 年後に今までの職業が同じ形でどれだけ残っているか、多くの職業は AI ですとかロボットに置き換えていかれるのではないかとされている中で、20 年後 30 年後を見据えて今何を行うことが長野県に暮らす人々の幸せにつながっていくのか、あるいは持続的な長野県の発展につながっていくのかを真剣に考えていかなくてはならないと思っております。

そういう意味では市町村長の皆様と私が意見交換をする場はあるようでありませぬので、ぜひ今日は市町村長の皆様から率直なご意見を、そして事務方同士のやりと

りではなかなか出てこない視点からご提言をいただければありがたいです。

新しい総合計画はこれまで以上に「地域編」を重視していきたいと思っています。この4月から地域振興局がスタートして、井出局長にも地域で私の目であり耳であり口であり腕であり足でありということで頑張ってもらいたいと考えています。長野県のそれぞれの地域が特色をもって発展をしていく、それぞれの強みの集合体が長野県のブランドであり力となっています。そういう意味で地域振興局をつくった成果として、まずは佐久地域の強みをしっかり活かした振興、発展ができるような取組みを我々県としてもしっかり行っていきたいと考えておりますし、今回の総合5か年計画の中においても、この地域をどういう地域にするか、もちろん地域内で完結するわけではなくて、隣接地域あるいは他県と連携することも視野に入れて地域をどうしていくかをしっかりと見据えた取組みをしていきたい。地域をどうするかということと長野県全体の総合計画をどうするかという両面からご意見をいただけるとありがたいと思います。

もう一点、今回の総合計画の策定にあたって、国連が2015年に国連サミットで全会一致により採択した持続可能な開発目標SDGs（サステナブル ディベロップメント ゴール）というものを念頭において作っていききたいと思っています。政府においても2016年5月にSDGs推進本部をつくって社会経済環境の諸課題を総合的に解決していきたいということで進めていくわけでございます。長野県の存在というものも製造業はもちろん農業、観光いろいろな分野で世界の国々と連携・協力抜きには語れない時代となっているわけでございますので、こうした国際的な目標や動きを視野に入れながら新しい総合5か年計画をつくっていききたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

今日は限られた時間ではございますけれども、ぜひ率直なご意見を、できれば長野県にとって耳の痛いご意見でも大歓迎でございますので賜りますよう心からお願い申し上げます。私からの冒頭のあいさつとしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○ 井出 地域振興局長

本日の出席者ですが、お手元にお配りしてございます出席者名簿のとおりでございますので、こちらの名簿をもって出席者の紹介に代えさせていただきます。

なお、軽井沢町長は所用のため欠席でございます。

それでは、お手元の次第に沿って進めてまいります。

「3 会議事項（1）次期総合5か年計画の策定について」と、「（2）重点政策に関する総合計画審議会等での主な意見」について、総合政策課の伊藤課長から説明させて

いただきます。

○ 伊藤 総合政策課長

総合政策課長の伊藤でございます。私から「資料1」及び「資料2」を説明させていただきます。

始めに「資料1」をご覧ください。「次期総合5か年計画の策定について」ということで、「1 計画の位置付け」の1行目にもありますとおり今後の県づくりの方向性を共有するため、県民の皆様とともに策定し、取り組んでいく総合計画としていきたいと考えております。その下5行の下線を引いてある部分に書かせていただいた通り、これまで以上に地域重視の観点を明確化するため地域編の充実を考えています。「2 計画期間」ですが、平成30年度からの5か年計画としていきます。「3 多様な意見の反映」の(2)にございますが、地域の課題や方向性については本日のような地域戦略会議で議論するほか、振興局ごとに対話や意見交換を重ねていきます。「4 策定日程」をご覧ください。総合計画審議会を昨年11月2日に立ち上げまして、現在までに3回開いております。今月中に4回目を開催したいと考えていますが、そこではある程度骨格を示していければと思っております。2月には計画案を公表し、この計画は県議会の議決が必要となる計画でございますので、議案として提出してまいりたいと考えております。地域戦略会議も同時に開催していきます。

「資料2」をご覧ください。次期総合5か年計画の構成のイメージです。まだ固まっていない箇所も多いですが、地域編の位置づけをどうするかということで、次のペーパーを見ていただきますと、現行のしあわせ信州創造プランの組立てを載せてございます。半分より右側下の部分に「第6編 各地域がめざす方向とその方策」とございますが、これが現在地域編と称しているものでして、佐久地域の目指す方向性ですとかプロジェクトが掲げられています。地域編の位置づけが全体の中でどう位置付けられているのか現行の組立てではわかりにくいので、一枚お戻りいただいて、次の計画においては、左から3つ目の「重点政策」というところに「地域の個性が輝く」ときちんと打ち出したうえで、その右側に地域経営方針ですとか地域重点政策として地域編をぶら下げています。その中で、四角の中の※(米印)にあります。さきほど知事からも申し上げた通り、佐久地域は3つの県と隣接していますが、こうした県外を含む隣接地域との交流を連携も視野に施策を構築していく方向になると思います。その下に「基本的視点」としてSDGsですとか共生・協働ですとか地域・現場重視といった視点を入れていくことを考えています。

「資料3」をご覧ください。「重点政策に関する総合計画審議会等での主な意見」ということですが、これまで総合計画審議会等でいただきました意見、次の総合5か年計画に盛り込むべき重点政策について、私ども総合政策課で、総論は全体的なものですけれども5つのキーワードでまとめたところです。1ページ目には「学習県」、「産業・イノベーション」、2ページ目には「子ども」、「生命を大切にする」、3ページ目には「新しいライフスタイル」というようなキーワードでまとめているので参考にしていただければと思います。

「参考資料」としまして長野県の現状をまとめてございますので、またご覧いただければと思います。

○ 井出 地域振興局長

続きまして、「(3) 佐久地域の特長と目指す方向性について」佐久地域振興局から説明をさせていただきます。説明は細川企画振興課長でございます。

○ 細川 企画振興課長

佐久地域振興局企画振興課長の細川と申します。それでは「資料4 次期5か年計画における佐久地域の方向性～佐久地域の特長をさらに伸ばすために～」に沿って説明をさせていただきます。

2ページをご覧ください。佐久地域と長野県の人口の推移を平成元年を100として表したグラフです。実線が佐久地域、点線が長野県を表しています。なお、グラフの下の注2にありますように、佐久地域の人口については平成15年までの数値に、北御牧村は含めておりません。長野県の人口は、平成12年をピークに減少を続け、平成22年には平成元年の人口を下回っております。一方、佐久地域では、平成16年にピークを迎え、その後減少に転じ、平成29年には平成元年程度となっております。

3ページをご覧ください。0-14歳、15-64歳、65歳以上と3つのグラフを示してございます。このうち0-14歳と65歳以上の人口の推移は長野県全体と同じ傾向ではありますが、15-64歳の人口が、長野県は平成7年にピークを迎えたのに対し、佐久地域は平成12年がピークとなり、その後の減少は長野県全体より緩やかになっております。なお、現在の佐久地域の人口は、長野県全体の約10%となっております。

4ページをご覧ください。佐久地域の特長、強みです。次期総合5か年計画の地域編を策定するにあたり、佐久地域振興局としては、佐久地域の特性を伸ばしていくことが

大事であると考えています。具体的には、佐久地域の優位性ですとか佐久地域固有の財産といった特長、強みを伸ばしていくことを目指したいと考えております。

佐久地域の優位性としては、多くの観光客が訪れる県内有数の観光地、軽井沢町・立科町などが存在すること、農産物の産出額等が全県一位であり、高原野菜や畜産を中心とした県内屈指の農業地帯であること、それから5ページをご覧ください、カラマツの面積が全県1位で、伐採期を迎えた優良なカラマツが数多く存在すること、保健活動や減塩活動などの健康に関する取組みが盛んであることがあります。

また、佐久地域固有の財産といたしましては、浅間山、美しい星空、首都圏からの近接性及び延伸する中部横断自動車道があると思っております。

次のページをご覧ください。こうした点を踏まえまして、佐久地域振興局が考える目指す方向性としては、佐久地域の特長、強みを活かした、確かな暮らしと活力ある地域社会の持続であると考えます。具体的な施策の方向性としては、記載の5つを考えております。1つ目が「地消地産と健康を核とした地域づくり」、2つ目が「地理的優位性を活かした移住・二地域居住の探求」、3つ目が「浅間山の防災体制強化及び活用」、4つ目が「美しい星空をテーマにした観光地域づくり」、5つ目が「新たな交流・物流に向けた中部横断自動車道の整備促進」です。

次期総合5か年計画の佐久地域編は、佐久地域の特長、強みを伸ばしていくことで、県全体の目指す姿である「確かな暮らし」の実現を図ってまいりたいと考えています。

「資料5」をご覧ください。こちらは佐久地域の「横断的な課題」の解決に向けた主要事業をまとめたものです。3つの横断的な課題の解決に向けまして、地域振興推進費や既配の部局予算、さらには地域発元気づくり支援金を活用して取り組む内容をまとめたものです。内容については時間の関係もございまして説明は省略させていただきます。裏のページをご覧ください。表の下にありますように、既配の予算なども活用して、622,679千円の事業費と元気づくり支援金26,414千円を活用して「横断的な課題」の解決に向けて取り組んでまいります。

「資料6」につきましては、「資料5」に示してございます元気づくり支援金の具体的な事業ですので後程ご覧いただければと思います。

なお、横断的な課題解決に向けた取組みについては、今週5月29日に佐久地域の県の現地機関を集めた、地域振興会議において意識・情報の共有を図っております。各機関で協力して課題の解決に向けて取り組んでいく予定でございます。

私からの説明は以上です。

○ 井出 地域振興局長

それでは「4 意見交換」にうつります。始めに各市町村長の皆様から順次ご発言をお願いしたいと思います。名簿の順番で小諸市長からお願いいたします。本日は県の次期総合5か年計画の策定に向けてこの地域で取り組むべき課題等についてご意見をいただければと思います。

○ 小泉 小諸市長

県の方から示していただいたように、地域の特性、例えば佐久市が中心にやっている健康づくりや観光が非常に重要であるということで、これを具体的に推進していく中でぜひお願いしたいことが、それぞれを単独で考えるのではなくて、横のつながりを考えていただきたい。例えば健康と観光というのをつなげていくことでさらにその魅力を強調できるのかなと思います。保健福祉事務所長もいらっしゃいますので可能かどうかわかりませんが、病院の受け入れ体制も含めて考えていく中で、例えば佐久地域の病院で健康診断や人間ドックとかを受けてもらいながら観光をしてもらうというプランを推進できないのかなと思います。この地域の特性という意味では、先日も報道されていましたが、特に小諸市は坂道が多いということもあり、坂道を日常的に歩いている方は糖尿病の重篤な方が少ないということも地形を生かした健康づくりという部分で、移住定住に結びつけられることができるのではと考えています。まとまりませんが、とりあえず後でいろいろと発言したいと思います。

○ 柳田 佐久市長

地域編については前回の計画でも取り入れられまして、その部分の拡大という形の中で、知事もそれぞれの地域の集合体が長野県であるから、地域に視点を置いた施策の動きを大変歓迎したいと思いますし、感謝申し上げる次第でございます。

その中で佐久地域において、目指す方向性としてお示しいただきご説明もありましたが、せっかくの機会ですので出席者の皆様も含めてご理解いただきたいこととして中部横断自動車の有効性についてお話ししたいと思います。ナンバリングはしてございませんが資料を用意しました。A3の「中部横断自動車の早期全線開通について」という資料でございます。今日ご出席の市町村長の皆様とは一緒に行動しておりますし、定住自立圏の中においては東御市も加わっているものですが、中部横断自動車の効果についてぜひ改めて確認したいと思います。昨日も県の会合でもお話ししましたが、中部横断自

自動車について今は長野県の東北信の荷物を海外に輸出入するためには横浜港を使う機会が非常に多いです。その中において横浜港と清水港との比較をした場合、机上の計算となりますが横浜港については2時間49分かかりコストとしては9,410円かかる計算となりますが、清水港においては4,300円と輸送コストが半分以下に抑えられることになり、大幅なコスト削減につながります。今は一般道でこの金額ですが、高速道路ができることによって速く移動できます。清水港についてはここ10年くらいで輸出入能力としては24倍になっていまして、静岡県が県を挙げて行う清水港の拠点づくりというものは大変凄まじいものがあります。それを活かすチャンスが佐久にも来ていると思います。

資料左下にもありますが医療機関についてですが、県のご尽力、また藤原町村会会長におまとめいただいた中において、佐久医療センターが整備されました。これについて、佐久地域の11市町村に関しては大変財政状況が厳しい中、傾注投資をしていただいております。加えてこの春からスタートした佐久総合病院の本院に関しても、南佐久の皆さん、佐久市についても大きな財政負担を行っているところです。これを活かしていくうえにおいても、中部横断自動車道の果たす役割が極めて大きいわけでございます。

資料右上の部分について、中部電力浜岡原子力発電所の方が一の事故の際、避難経路としては国道141号が指定されています。しかしながら浜岡原子力発電所がダウンした時の進路を考えますと国道141号がそのままの状態であるかというところかなり疑わしいものがありますので強度の高い中部横断自動車道を通しておく必要があると思いますし、この計画において牧之原地域は佐久市に移動となっておりますので、大きな役割を果たすものであります。南海トラフを始め、この30年以内の発生確率は最も高い災害の一つでもありますので、こういったものへの備えは極めて重要であると思います。

資料右下の「新鮮な高原野菜を多くの人に届けたい！」ということですが、これは夏秋レタスとしての長野県のシェアは大変高いです。長野県の中における南佐久、そして浅麓地域の野菜の占める割合ということを考えると、朝取り野菜のランチへの提供ですとか販路拡大のためには、この中部横断自動車道が必要不可欠でありますし、輸出入を行っていくうえでも大変重要なことから産業面でも中部横断自動車道が果たす役割は極めて大きいものがあります。

私が危惧しているのは平成31年度には中央道から清水までは全線開通いたしますが、そうなりますと日本海と太平洋とを結ぶうえで、通っていないのは南佐久のみとなります。距離としては34kmありますが、それが取り残されることへの不安を強く感じます。平成29年度末には八千穂高原まで開通しますが、それ以降についてはルート決

定もしておりませんし、実際にどういう方法で整備するのか決まっていないのです。そういう意味では平成 29 年度の上半期に国に対してアピールしていかなくてはならないと思います。

加えて申し上げますと、平成 31 年度に静岡・山梨を通ると申し上げましたが、そうなりますと日本海と太平洋を結ぶという機能については南佐久を通らなくても諏訪・松本・更埴を通ればつながってしまうという言い方もできるわけです。この路線については大変標高の高いところを通りますし、急こう配ということもあります。そういう意味で、大きなハードルにもなっています。この道路についての国土交通省の地域割りとすれば関東地方整備局になりますが、関東地方整備局の関心ごとといえば外環であり圏央道で、2020 年のオリンピック・パラリンピックを含めて、都内を混雑させないため傾注投資をそちらに向けている。長野県と静岡県が手を組んでしっかりとアピールをしていくことが夏までにやらなくてはならない緊急的なことであると思います。

以上のことは本年度の話として、来年度以降それを踏まえたうえで中部横断自動車道の建設促進というものをやっていく必要があるのではないかと思います、改めてお話をさせていただいたところでございます。このことについては地域全体がまとまってやっけていかなくてははいけませんし、その中において、地域が一丸となって一点の曇りもなく固まっていって目標達成につながるのではないかと思います。

○ 新井 小海町長

中部横断自動車道につきましては今、佐久市長がおっしゃったとおりで、この地域にとってはなくてはならない道路であり、つながって初めてその効果が大きくなるものがございます。ぜひとも県のお力添えをお願いしたいと思います。この計画の中で、こういったことを申し上げていいのかということもありますが、学習県を目指している中で、先ほどの説明の中にもありました通り 0 歳から 14 歳の人口が県も佐久地域も同じ傾向で減少しているわけです。当町には小海高校という地域高校があるわけですが、県の高校教育課の方で学びの改革基本構想の検討を始めました。先般、町村会の主催で所在市町村の首長の説明会を開いていただきました。一番は地域高校をどうするか、特定高校にするのか、再編ありきではないとおっしゃっておりますけれども、そういった方向に進んでいくことがどうしても懸念されます。地域を振興する、地方創生といった意味において、どうしてもなくてはならない学びの場については確保、継続をしていただくことが基本になると思っております。県の教育委員会の中でもこれから地域の皆様の声をしっかりと聞いて、そしてその方向を定めていくということだとお聞きしており

ます。前の 12 通学区を基本にして説明会あるいは地域の皆様の声を聞く機会を設けていただけるということですので、その都度地域の皆様の声がたくさん出てくるかと思いますが、バランスの取れた長野県の総合教育計画を立案していただけるとありがたいです。特に南佐久には高校が 1 校しかないということで、重要な位置を占めているという点をご理解いただけると幸いです。

○ 佐々木 佐久穂町長

4 月 17 日に就任しました、よろしくお願いいいたします。始めに知事、追悼式に関して当町在住の大工原さんへの心からの追悼ありがとうございます。この場を借りてお礼申し上げます。

改めて佐久地域戦略会議について、中部横断自動車道の整備それから佐久医療センターの開院、さらには信州 DC と 3 つ続けてお世話になっていることを感謝申し上げます。長野県下でも非常に明るい展望の多い地域であると認識しております。

その中で中部横断自動車道にあっては、柳田佐久市長がおっしゃるとおり、私も未実施区間を何とかしてつなげなければならないという考えでございます。小さな町ではございますが何としても清水港を港としたいという思いは同じでございます。

医療センターに関して申し上げますと、世界最先端の医療センターということで、医療費も世界最先端となりなかなか苦しいところがあります。やはり地域の病院にいかに早く返すかが重要であると思います。当町には町立病院がございまして、その医師確保が非常に大変で問題となっています。どうしても若い医師は世界最先端といった方に目を向けてしまうところがあります。佐久総合病院が 2 つに分かれている中で、最先端を求めてきたけれども、地域医療も魅力あると思わせないともう医師は帰ってこないと思います。当町の病院の場合は 100 床以下です。これで 7～8 人の医師がどこかに行ってしまったら、病院を閉じなければいけなくなります。3～4 年前に佐久病院の精神科で医師が 7～8 人いなくなった瞬間に 130 床が一瞬にしてなくなったことがあります。それだけに日々医師の確保が大変であると考えております。そのあたりを佐久地域として考えていかななくてはいけないと思います。

○ 井出 地域振興局長

それでは 4 名の方からご発言いただきましたので、知事の方から発言をさせていただきたいと思います。

○ 阿部 知事

また私からはコメントさせていただきますが、道路の話は建設事務所長から状況を話してもらいたいのと、医師確保の話は保健福祉事務所長から話してもらいたい。

小諸市長からお話しいただいた医療観光といった分野横断的に考えましょうという話は私もまったくその通りだと思います。総合計画を県でなぜつくるかというのと、今回総合計画に合わせてそれぞれの個別計画についてみんな年度を合わせて一斉に改定をするものは改定します。総合計画に分野別のことを書いても個別計画と同じことを書くことになってしまうので、ここは重点を置いていくテーマと横断的なものを総合計画に位置付けることが大事になってくると思っています。横の連携、横断の話は全く同感ですし、先ほど医療観光の話もありましたけれど具体的な案が他にもあればいただきたいと思っています。

小海町長からいただいた小海高校の話は教育委員会で考えていますので、教育委員会が考えていく話に私があまり踏み込んでしまってもいけないかとは思いますが、教育長と私が話している内容は長野県の中山間地をどう元気にしていくかということです。昨日も中山間地の学校をどうするかということで総合教育懇談会を開いて首長の代表と市町村教育委員会の代表と私と原山教育長が出席して、中山間地の学びの場をどうするかをテーマとして話し合いました。市町村の皆様が多かったので小・中学校中心の話でしたが、ICTを使ってもっと利便性を高めていくことで少人数教育のデメリットを補完することにつながっていくという話もさせていただきました。今回の総合5か年計画は長野県の特色を考えた時には中山間地域をどう元気にしていくかということが重要なテーマであると考えています。そうした問題意識は教育長とも共有しております。今回の高校をどうするかという話は、考え方としては比較的街の中の学校ではない学校に目を向けていく方向を教育委員会でも出していくと思っています。個々の学校をどうするかというのはこれから地域の皆様としっかり対話をしていかななくてはいけないと思っていますけれども、大きな考え方はそういう方向です。例えば白馬高校もいろいろと問題はありましたけれども、国際観光学科をつくって地元の市町村にも多大なご協力をいただく中で全国募集をして新しい形で生まれ変わらせています。佐久地域は学校づくりの動きが出てきている中で、そういう動きも応援していかななくてはいけないと思っています。もう一つは公教育の平等性・均一性・画一性というものも一定程度は尊重していかななくてはいけないと思っていますが、とはいえ昨日も北相木村の「花まる学習会」の話もさせていただきましたが、地域の特色ある学びの場づくりは県としてもしっかり応援していかななくてはいけないのではないかと考えています。街の中にある小・

中学校や高校よりも農山村部にある学校の方が少人数で教員の数もあまり多くはないわけですし、小回りが利いて特色が作りやすいのではないかと考えています。ICTを活用してデメリットを克服することもできますし、山村留学みたいな施策と絡めて学校を使うということもありえると思います。昨日も教育長と話しましたが、中山間地域の学びの場づくりという教育委員会的発想もそうですが私からすると学びの場がある中山間地域をどうするかということになります。学校の在り方、学びの在り方というのと地域の在り方というのは地域からすると一体であると受け止めていただいていると思っています。県もそうした視点で考えなければならないと考えております。そこは一緒にいい方法が考えていければと思っています。

道路などの話は各所長から話してもらってそれに対してコメントしたいと思います。

○ 坂下 建設事務所長

ただいま佐久市長はじめ各市町村長から力強い整備促進のお言葉をいただきありがとうございます。佐久市長からは整備効果ということで資料もだしていただきました。このほかにも国道 141 号に対しまして、中部横断道ができることによって国道 141 号の交通量が減少して事故が減っていくことや渋滞が解消するといった効果もございますし、交流・物流によりまして企業進出にもつながり佐久地域の人口増も見込めます。観光面での効果も多大だと思っています。

そういう中で、いよいよ今年度末には佐久南 IC から八千穂高原 IC まで延伸して 14.6 km があくこととなります。そうしますと小諸の JC から八千穂高原 IC まで目に見えて開通するので使ってみて非常に便利になったなと感じることができると思います。そういった開通を契機としまして、現在は基本計画区間ということでまだ具体的な整備手法等決まっておりませんが、様々なご意見があると聞いております。県が窓口となりまして未来会議ですとか様々な勉強会も行っておりますので、こういった会議を通じて皆様から意見を聞き、その場でいろいろな情報も発信して不安を取り除く窓口になって進めていきたいと思っています。去年は知事も出席して山梨で総決起集会を開催しました。また、12 月には依田県議が会長となられまして佐久地域の議員連盟の設立ということで同盟会等の活動も非常に活発に行っていただいています。こういった会としっかりタッグを組みまして県としましても整備促進に取り組んでいきたいと考えています。

○ 阿部 知事

ルート帯を狭める調整もやっているのではないかと。

○ 坂下 建設事務所長

ただいまルート帯3km、清里の山梨分については1kmになっているということで、3kmから1kmまで縮めるようなタイミングについては未来会議等の勉強会で意見を聞いているところです。

○ 阿部 知事

私の問題意識は柳田佐久市長がおっしゃるとおりです。昨日も申し上げましたが、国土交通省関係で私が行く際に最も優先しているのが中部横断自動車道と三遠南信自動車道です。先般の関東地方知事会議においても、中部横断自動車道は山梨県側で少し反対運動等がありなかなか進捗しづらい状況もありましたが、山梨県側の問題はだいぶ解消に向かっているとのことでした。山梨県や静岡県とも一緒になって中部横断自動車道の全線早期開通をしっかりとやってほしいと求めています。新潟県、長野県、山梨県、静岡県で構成される中央日本4県サミットという、南北軸を4県でしっかりとさせようというテーマの知事会議もあり、その場でも当然最重点のテーマであるという認識です。国土交通省も我々の考え方は相当程度しっかりと認識はしてもらっていると思っておりますので、引き続き地元の皆様と一緒に強くなり働かしていきたいと思っております。

○ 小林 保健福祉事務所長

私の方には2点あったかと思いますが、1つは「健康と観光」ということで、例えば健診を受けながら地域を観光するという話をいただきました。12月に小諸厚生総合病院が新しく市役所の近くに移転するというので、病院と市がタイアップしながら浅間高原を活用した取組を進めておりますので、そういったことを我々としても注視していきたいと考えています。ただ、医療の現場とすると、現在各地域でやっている健診も必ずしも枠が空いているわけではなく、地域の皆様もまだまだ予約がとりにくいという現状があります。また、健康診断自体も1日や1泊2日くらいで済んでしまうということもありますので、ここはよく医療関係者とも相談しながら実際どういうことをやっていくのか考えていければと思います。

また、佐久穂町にある千曲病院の医師の確保ということで、2年前に移動知事室の一環で知事が千曲病院を訪問させていただいて、その時は前の院長でしたがいろいろと病院の実情もお聞かせいただきました。また新しい院長先生になられてからも山梨県側と協力関係を築きながら医師確保に奔走されているということは私も日々やり取りの中

で感じているところでございます。医療は何ととっても各病院やそこで働いている皆さんが充実していることが他の地域から医師を呼ぶ一番大きな力ということですので、我々としましては医療機関の皆様がこの地域で充実して仕事ができるような環境づくりを進めていくつもりでございます。この地域はおかげさまで医療機関同士の連携も良く、様々なテーマで集まりを持たせていただいているところです。いろいろな取組も少しずつ形になっていますし、病院としても同じくらいの規模の病院と定期的な連携を図っていくような取組をしておりますので、医師が佐久地域で働いてみたいなどとさらに感じていただけるような地域づくりを進めていきたいと思っています。ちなみに県の医師確保の取組としましては、奨学金等を出している医師がこれから少しずつ増えていきますので、そうしたところも含めて地域の医療体制を維持していけるようにしていきたいと思っています。

○ 阿部 知事

保健福祉事務所としては医師の確保に協力しているのか。

○ 小林 保健福祉事務所長

病院への支援は、県庁の医師確保対策室と連携をしながらやっていますけれども、最終的な采配を振るうのは向こうですので、そのあたりを一緒に考えていくということはやっています。

○ 阿部 知事

他の局でも言っていることですが、地域編に特色を出すということで、佐久地域は健康でも特色を出せる地域ではあると思いますが、ベースとしての医師確保は保健福祉事務所に加え井出局長にもお願いしていますが、もっと現地機関が地域の医療機関と一緒に取り組んでほしいと考えています。就学資金の貸与などは本庁がやっているの、現地機関においては各病院の皆さんと問題意識を共有して一緒に動いてほしいと思います。地域が安心して定住できる場所にするためには医療と教育が最も重要であると考えています。環境整備という話もちろん必要ですが、もっと具体的に動いてほしいというのが私のリクエストです。体制が弱いから知事がそんなこと言ったって動けませんということであれば、相談してもらえればと思います。とにかく具体的に動いてほしいと思いますのでよろしくお願いします。

○ 井出 地域振興局長

この後の進め方ですが、南佐久郡の4村長からお話をいただいた後、県の方からお答えをさせていただき、その後北佐久郡の2町長からお話をいただいて同じようにお答えさせていただければと思います。

○ 藤原 川上村長

県がつくっている総合計画は県全体の将来めざすべき方向というものを謳っているわけですが、これからはその下にある圏域構想というのが非常に重要でして、ソフトとハードをしっかりと融合させながら夢に向かっていくという計画でなければいけないと思っています。特に佐久地域をみますと準高冷地から高冷地ということで、標高差が600mから700mあるわけです。農産物、林産物などあらゆる資源が豊富にありますから、相当な潜在性を持っているわけですが、まだ手付かずの部分が相当あり、そういう点では他の地域から見ますと非常に可能性を秘めた地域ではないかと思っています。

私見ですが、標高差が600mもあるので一つの計画の中でということになるとなかなか難しいものがあります。例えば国際的な観光地もありますし、佐久市を中心とした商工・観光・福祉都市といったような形成をしてみてもどうでしょうか。南佐久は標高が1000m近いところですので、高原野菜や花、畜産で非常に元気のあるところですので高原野菜、花き、畜産物へ観光を交えたアグリ副都心にしてはどうかと思っています。南佐久は自治体同士がうまい絆で結ばれており、特別養護老人ホームが二つありますが、一つは佐久広域が絡んでいますが、もう一つは完全に5町村で作っております。介護老人保健施設もそうです。診療所も小海町が中心ですが、それも5町村が参画しています。特に大きいのが佐久病院の小海分院は補助金もなく佐久病院と5町村で30億円近い病院をつくったわけでございます。それから共同作業所、畜産施設などもみんな共同でやっています。各町村の診療所は別ですが、公設・民営的な方法でやっておりますので、ミニ広域が完結型でできているわけです。そういうものをしっかりと堅持していかなくてはならないと思います。

そして先ほど小海町長や知事からもお話がありましたが、これからは教育の問題で、人間が少なくなってくると、一人ひとりの人間の質を高めていかなくてはいけないという宿命的なものがあります。ですから、地域高校を何とかして特色を出して、作っていかなくてはなりません。また、県境地域でございますので、県外に高校生が流出してまいりますので、地域に魅力のある高校をつくっていかなくてはいけないと思っております。昨日、国と地方の協議の場があり、地方創生の大臣と話をしましたが、全国に国立

大学があって、都市部の国立大学はオーバーフローで生徒の収容率が200%を超えております。地方は40~50%で信州大学が14%しかないわけです。地方の国立大学の収容力が余って、国はオーバーフローでどうにもならないので学科の増設ですとか新しい学部の創設をやらないわけでございます。地方に力を入れていく中で大学には限界があります。ですから国立高校を誘致してみるのはいかがでしょうか。長野県は約80校の県立高校がありますが、極端に生徒数が減っていくわけですので、どこかで統廃合などがでてくるかと思えます。国立高校というのは筑波大学附属高校くらいで、あとは高専もあります。地方の教育を国が重視するのであればもう少し特徴のある地域に必要とされる学校を設けるため国立高校をつくってはどうか。それに長野県が一番先に手を挙げたらどうでしょうか。というのは長野県内には大学がいくつもありまして、松本市にあり、長野市にあり、南箕輪村にあり、野辺山に分校があり、筑波大学が高峰高原にあるわけでございます。それに関連する遊休教育資源が相当数多く残っておりまして、そういう資源をしっかりと使っていけばキャンパスもできるのではないかと思います。まだこの意見はどこかの県からもでてはいないと思えますので、できれば長野県が国立高校の誘致運動をやってもらえればいいと思えます。特に佐久地域が一番適地ではないかと思えます。野辺山の信州大学農学部も使われていませんし、筑波大学も川上村で200ha貸していますが、いい論文も書いていますし、いい研究もしていますが全然地域に還元されてないという事実があります。そういうものも地域に還元していただいて、大学と高校がうまく融合するような地域の特色がある教育設計をしていただければ非常に面白いと思えます。

佐久地域はいろいろと考えていけば多くのアイデアが出てくるのではないかと思いますので、地域振興局の皆様にもその辺を踏み込んで検討していただければと思います。

○ 大村 南牧村長

佐久地域の特長と強みの中の「高原野菜や畜産を中心とした県内屈指の農業地帯」の中で、特に村で深刻にとらえているのが畜産を取り巻く現状でございます。畜産といっても昔でしたら50頭、100頭でも畜産は成り立ったわけでございますが、今はもう畜産もほかの産業同様非常に大規模なものとなりまして、200頭くらいにならないと畜産が成り立たない状況でございます。これは村だけでなく、特に乳牛の関係は全県、全国ともに同じ状況ではないでしょうか。そんな中で、当村には昔4000頭以上の牛がいたわけですが、今現在2100頭に減っております。「ポッポ牛乳」という6次産業を数十年前に立ち上げ、その中で脚光を浴びているのがヨーグルトです。売り上げが

伸びているのでなんとかやっつけているという現状です。畜産業がなぜこれだけ衰退しているのかというと、やはり 100 頭からの牛を飼育した時に、想像以上の牛糞が出るからです。1 頭の牛から 1 日に大体 30 kg から 50 kg の糞尿が出るため、100 頭以上となれば、これを処理するのに膨大な手間とお金がかかります。ここの部分を何とかしないと畜産業は成り立たないのではないかと思います。村ではこうした深刻な状況で農家をやめてしまうケースもありますし、やめることになるという声も聞かれています。何とか牛糞をバイオ資源として活用できないか、これは各自治体でやっていることですが、なかなかうまくいかないようでもあります。バイオによって堆肥をつくるなど、試行錯誤しながらやっていきたいと思えます。それには県レベル・国レベルでの支援が必要であると思えますので、ぜひとも畜産振興に欠かせないこの問題を取り上げていただきたい。今まででしたら餌や飼料が高いということで、県から補助金もでましたが、これは牛の飼育費用で終わってしまいます。堆肥・牛糞の問題を解決することで、大型機械を導入しなくてもよくなり、そこにかかるコストを牛の規模拡大につなげることができるので 150 頭から 200 頭くらいの飼育ができるようになり、良い経営ができるようになると思っていますので、ぜひともご協力をお願いしたいと思います。

次の「佐久地域固有の財産」にある浅間山は観光面を始め、それなりの経済効果をもたらせています。南牧村の赤岳から南沢尾根までの地籍に数十年前につくられた登山道がありますが、整備がされていない状況です。場所によっては胸まで埋まるような堀になっており、そこに木の根が張り、石が転がっている状況で利用が難しい状態です。方や、その裏側の諏訪市、茅野市、富士見町方面から見ますと壮大なスケールでロープウェイから始まり、ペンションからスキー場までありとあらゆる資源を使っています。登山道について整備をして、この八ヶ岳を浅間山と同じくらいの観光資源として活用していきたいと考えていますので、県としてもご支援をよろしくお願いしたいと思います。村には県民の皆様をいやすことができる場所が数多くありますので紹介をしていきたいと思えます。これについては南牧村の中学生も登山をするわけですが、きっかけは登山道が荒れてしまい、住民すらこの登山道を使わずに茅野市ですとか富士見町側から登っているということを知って昨年からはじめたところでした。

それから「美しい星空」と関連して、環境庁の主催で行われる「星空の街・あおぞらのまち」が昨年は四万十市で開催されましたが今年は 10 月の 2 日間南牧村で開催されますので準備をしております。過去には佐久市でも開催したことがありましたが、王滝村ですとか長野県下でも何か所かで開催したイベントでございます。こうしたイベントを通じてなお一層美しい星空というものを佐久地域から発信していければいいと思

ます。

先ほど、佐久市長からも中部横断自動車道の話がありましたが、私たちとしてももつともな話でございます。基本計画に載ったのは平成 23 年頃だったかと思います。その 3 年後に北斗市は 1 km、ルートを A から B ルートにしたのが平成 26 年の 7 月、この時に南牧村も 1 km 帯の一部と示されたところです。それから今年で 3 年を迎えるわけですが、知事もルート帯を 1 km 帯にするという話をしていらっしやったかと思いますが、その 3 年間の間に 1 km 帯として、環境アセスメントの配慮書に基づいた事業に取り組んでいただきたいと思います。

○ 中島 南相木村長

今回の県の総合 5 か年計画につきましては、先ほど知事の方からお話もありました通り、中部横断自動車道、それから災害対策、医療と教育ということでありたいお言葉をいただいたと理解をしているところです。村の長として何点かお願いしたいことがあります。南相木村は佐久市の 100 分の 1 の人口約 1,000 人の村でございます。その中で村への移住・定住の推進は人口を増やすため、または減らさないために必要であると考えております。そのために、今回佐久地域として二地域居住の推進に取り組むということに掲載していただいたことは本当にありがたいことです。全国町村会を出しております町村週報を読ませていただいたところ、昨年 10 月に行われた国勢調査の結果の中で、都市部に住む住民の約 3 割が地方で暮らしたいと答えたというアンケート結果が掲載されておりました。その中で、最近では田園回帰ということがございまして、都市から地方へという流れが進みつつある中でこの二地域居住は非常に大切であると考えますし、それには何が必要かというやはり公共交通機関、特に新幹線でこの地域まで 1 時間半くらいで来ることができ、新宿方面からだと中部横断自動車道が長坂や須玉というところで止まってしまうのですが、つなげていただくことが重要であると思っております。

医療と教育という部門につきましても、隣の北相木村では 40 年前から里親制度を始め、2 年前から私学と公教育の連携をやっております。南相木小学校の先生にも昨年の 4 月に北相木村の授業に参加しにってもらいました。ところが、学校の先生方の中には「公は公、私学は私学」という若干保守的な考えの方もおられまして、なかなか南相木村ではそれが実現できていない状況でございます。先ほども知事がおっしゃられましたが、そういう部分においては県の職員、教職員につきましても、意志の統一が必要なのではないかなと思われました。

そして一昨年の 12 月に開催された知事との懇談会の中で、南相木村の現状としては山林の多くを占めるカラマツも伐期を迎えているということで知事にトップセールスをしていただきたいようお願い申し上げました。そんな中で昨年から今年にかけてカラマツの認証について佐久地域 11 市町村、軽井沢町と御代田町については町有林が少ないということで町の中の団体が入っていただいて全 11 市町村が一緒になりましてカラマツ認証を始め、一歩前進したなと感じています。カラマツもあと 10 年～20 年経ちますと立ち枯れを起こし、全く価値がなくなり逆に山林の荒廃を招く恐れがございますので、ぜひそういう部分については更なるご支援をいただければと思いますし、計画の中にもカラマツの利用促進というものを挙げていただいたことは高い評価をしているところでございます。

また、社会資本の整備の中で、国道 141 号線の整備をしていただいているわけですが、南佐久については主要地方道・川上佐久線 2 号線が通っております。ただ、馬越峠は冬期間通行止めになりますので通年の通行ができない状態です。その中で、川上村長からも話がありましたが、どうしても越境して山梨県の高校へ行ってしまうこともあります。この馬越峠がトンネル化できますと佐久地域の方に通うことも可能となりますので、そのあたりについてもご理解をいただければと思います。

そしてまた、移住・定住に必要な医療・福祉という部分では佐久総合病院に大きな部分を担っていただいているわけですが、佐久地域の医師の確保という問題があります。日本全体が人口減少する中で難しい問題ではあるかと思いますが、産科医の確保は長野県にとっても佐久地域にとっても必要不可欠であると考えています。難しいことではありますが何らかの形で確保していただければ地域の発展につながると考えています。

南相木村は自然豊かで、昨日東京へ出張してきましたが、東京は住むところではなくたまに行くところだなと感じました。自然豊かなところで子育てができるというのは次の世代を担う子どもたち、そして日本にとって必要ではないかなとつくづく感じました。

○ 井出 北相木村長

県全体にも通じるのではないかと思います。林業関係でお話をさせていただきます。佐久地域の特長ということでカラマツが伐期を迎え、ほとんど 60 年生を迎えている状況です。その中で、村では地域振興局林務課の力をお借りして 28 年度から集団の更新伐を行っています。20 人くらい所有者がいらっしゃるが個人個人がやっていたら商品価値としてもなかなか難しいということで、集団で一団地として森林組合がやっている状況です。その中で、確かに佐久のカラマツはいいけれども同じ 60 年生としても A 級、

B級、C級といろいろなものがあります。集団でやることでA級がまとまります。そういうものは関東のメーカーが持ちに来てくれます。個人でやっているとうちはいきません。そういったメリットがありました。平成28年度には個人林・公有林合わせて30数haをやりましたが、30数haという面積は北相木村のカラマツの面積の100分の1でございます。今のペースでやっているとう単純計算で100年かかってしまうわけでございます。もっとやりたいので業者や森林組合に話はしましたが人手が足りないといわれてしまいます。先般も南佐久中部森林組合も職員を募集したようですが、なかなか集まらないのです。来ていただいても仕事が割に合わないとうやめてしまう方もおられるように、人手不足がこれから大きなネックとなります。農業の場合ですとう新規就農者ということで一人でもできますが、林業に携わってくれる人はなかなか個人としてではなく業者に入るとか、森林組合に入るとか、あるいは数人のグループでやらないといけないのが実情でございます。冒頭に知事からお話があった通り20~30年後の職業というような問題も出ておりましたが、これからは農業だけでなく林業の従事者をどう確保するかがすでに大きな問題となっております。北相木村では業者や森林組合と組んで6月の補正予算で要求していくのですが、林業の体験・インターンシップをしていただいで移住・定住に結び付けられればと考えています。しかし、今の労働条件ですとなかなか厳しいものがあり、そのあたりを県としても応援・フォローしていただけるような制度を何か考えられないでしょうか。

それから、カラマツ利用に関して建材にしての乾燥の数值は出ておりますが、若い人たちのグループが家具を作り出しましたが、その家具に対しての乾燥は数值が難しくヒビが入ってしまったたり、節の問題等があるため、今年村と林業総合センターが一緒に研究していますので、どうかその点もバックアップしていただければと思います。

それからもう一点、「花まる学習会」の話も出ましたが、これは詰め込み式ではなく、いかに子どもたちにやる気を起こさせるかという塾でございます。村の小学校の先生方が「花まる学習会」と一緒に15人くらいのクラスでどういう教育をやっていたらよいかカリキュラムを自分たちで作っていきます。今は親子留学ということで8世帯がまさに二地域居住をしております。今3年目なのですが、その人たちが小学校だけで終わるのではなく中学校もというニーズもあります。教育の場所として子育ての里として何かできれば違った佐久地域・長野県ができるのではないかと考えております。

○ 阿部 知事

この会議は陳情・要望の場ではなく皆様と一緒に政策を考える場であると思っておりますの

で、こういう問題があるので何とかしてくれないかというお話をいただくことは一緒に考えるきっかけにはなると思っています。

川上村長おっしゃっていただいた佐久地域を特色で2地域に分けた方がよいのではないかという意見ですが、非常にごもつともな提案だと思えます。地域編を考えていくうえでどうするか検討していきたいと思えます。国立高校について、信州大学も国立大学法人になってからあまり国が積極的に取り組まず大学法人任せになってしまっているのもう少し地方の国立大学にも国が力を入れてもらいたいと同時に、大学の地方分散であったり、多様な学び場の創設に国がもっと本格的に支援をしていただきたいと思えます。国立高校を国が作り出すということであれば真っ先に手を挙げてもいいのではないかと思えますが、軽井沢町ですとか佐久穂町では学校づくりの動きもありますし、地域の高校をどうしていくかという話もありますし、また川上村長がおっしゃったように県内には大学や教育機関などのセミナーハウスみたいな施設が結構あるわけです。もう少しそういう資源・資産をしっかり整理しなくてはいけないと思えます。そのうえで、もっと所有者に使ってもらい、所有者が使わないのであれば我々が使い方を提案していくなどいろいろと考えていく必要があると思えます。各地域振興局単位で意見交換をさせていただいて、一つ問題意識が共通するのは空き教室であるとか空き学校、空き公共施設、地域に行けば民間の物もたくさんありますし、そういうものをどう活用していくのかということです。市町村ともよく相談して考える場をつくり、その考える場も全県1区では抽象的な話しかできないので、地域振興局単位くらいでつくるのがいいと思えます。県の空いた施設、市町村の空いた施設、民間の空いた施設、空き家などどう使うかを一緒に考えていければいいと思えます。昨日の県と市町村との協議の場では民間投資をどう促進するかという話で、その中の一つに学校の話も入れていますので、そういう文脈の中で市町村の皆様とも一緒に考えていきたいと思えます。

南牧村長からお話の合った畜産について、農政部には「畜産をどうするのかしっかり考えてほしい」と指示を出しているところです。いろいろと課題がある中で、自分たちで考えてとなくなってしまっていると思えますので、畜産振興の話は牛糞処理や資源化の問題も含めてもう少し私の方で農政部と議論するようにいたします。登山道の話は前からいただいていますので、再びお話いただき恐縮でございます。今は世界水準の山岳高原観光地をつくろうと観光地域づくりをやっていこうと進めています。今までの観光行政は単なるキャンペーンを毎年毎年繰り返して全く進歩していないので、それではだめだということで、遊歩道整備ですとか県立公園の整備も含めてやっていこうとしています。そこは井出局長の方で受け止めていただいて環境保全と開発とどう調和をとるかを含めて一緒に考えてほしいと思えます。星空の話は、今回の信州DCのパンフレットの表紙に南牧村を使わせていただいています。私も南牧村で

星を眺めさせていただきましたが、観測所の人たちにも長野県は宇宙県として取り組んでいただくことになっています。南牧村ですとか阿智村などいろいろなところでしっかり打ち出しています。この佐久地域も宇宙と関係するものがたくさんあり、由井さんも宇宙飛行士としていかれたりしている地域でもありますのでそこはしっかりと進めていきたいと思います。

南相木村長からお話いただいた二地域居住は県でも進めていきますが、問題は公共交通ですね。公共交通は今回の総合5か年計画の中でも最も重要なテーマであると考えています。企画振興部へ地域の足の確保と観光の二次交通をどうするのかと事業者交えて検討を始めてもらっていますが、地域の暮らしを維持していくうえでは、どんどん高齢化が進んでお年寄りが運転し続けるのもなかなか困難な環境にもなってきているので、今まで市町村の皆様には相当地域の足の確保を頑張ってくださいと思っていますのでここは一緒に取り組んでいきたいと思っています。

北相木村長からお話いただいた取組みについては、この前「花まる学習会」の代表と話しまして、北相木村の取組みはぜひほかのところにも広めたいとおっしゃっていました。私はいいいことだと思うのですが、北相木村も最初は苦勞されたと思いますが、現場の学校の先生たちが理解をして納得をしてやっていただくことが重要ですし「花まる学習会」の皆様も自分たちが前面にしゃしゃりでてというわけではなく、学校の先生たちが前面に出て自分たちが前面に出る必要はないとおっしゃっていました。そういう取組みを広めていければ私としてはありがたいと思います。北相木村長にはいろいろ教えていただきながら我々も一緒に考えさせていただきたいなと思います。

林業の話が南相木村長からも北相木村長からもありましたが、この前、国際ウッドフェアというものを長野市でやって、そこで中部森林管理局や藤原町村会会長にも出席いただいて「信州プレミアムカラマツ」という名称を付けて、伐期を迎えた信州カラマツをブランド化してしっかり売り込んでいこうという方向性を打ち出していますので、国有林を中心に始めていますけれども、そういう動きを全県にしっかり広げていきたいと思っていますし、人手不足の問題は単に補助金を出してどうにかするというのは全く根本的な解決にならないと考えています。そういう意味では国際ウッドフェアでも、オーストリアを始めとして先進的な林業機械ですとかスマート林業といった取組みが相当紹介されています。長野県・日本の林業の生産性はまだまだ低い。生産性が低いと給料も出せないなので人手も集まらないという循環になってしまう。林業の生産性向上、スマート林業を我々も打ち出していきますので地域の皆様や林業関係者の皆様も一緒になって取り組んでいただけるように協力をいただきたいと思います。

いろいろな地域の道路整備や要望をいただいていますので、建設部や建設事務所の目線での道路ということではなくて、地域の振興をどう考えるかという意味での道路整備の重要性は

南相木村長がおっしゃるとおりであると思っていますので、総合的に考えるようにしていきたいと思えます。

産科医確保の問題は県も問題意識をもってしっかりと取り組んでいくべき課題であると思えます。北相木村長からの「花まる学習会」の話や教育改革の話はいくつか県内の中山間地域の学校のいい取り組み事例として他にも広げていけるよう協力してもらいたいと思えます。

「花まる学習会」ですとか喬木村のICTを使った教育ですとか、地域の教育をどうしていくかということについて県内の市町村でかなり工夫して取り組んでいるところがござますので、ぜひ広げていきたいと思えますし、中学校へのニーズへの対応というのもまた具体的にこういうことというものがあれば別途ご相談いただければと思えますのでよろしく願いたします。

○ 茂木 御代田町長

私はこれまでの地域計画どうしても一つのテーマにまとめるということがあって、無理ではないかと思えていたが、今日の川上村長の話聞いて、エリア分けするというのはとても良い案だと思っております。そうすると、地域の作っていきかたが見えてくる感じがしましたので、とても良い提案だと感じました。

それで、佐久地域の財産をどのように作っていくかというわけですが、例えば、企業誘致やっていますけれども、御代田町で誘致できるという企業は、我々のところは平な土地がいっぱいあるわけではないので、1,000人とか2,000人という大きな工場を呼ぶ不可能です。いくら佐久市と張り合っても、絶対佐久市のほうが工場の誘致は有利だと思えます。私は地域を平均的に企業誘致策とか産業とかやるのではなく、どこかに特化して県が力を入れていく事業をやったほうがよいのではないかと思っております。例えば、企業誘致であればこの地域は佐久市に力を入れて、大規模な工場を呼べばよいと思うのです。それを周辺の市町村がその財産をどう活かすか知恵を働かせていけばよいと思うのです。御代田町にシチズンとミネベアという工場があって、だいたい二千数百人の従業員にアンケートを取ったことがあって、その中で御代田町に住んでいた人の割合は3割です。これは結構高いのではないかと思ったのですが、だから、工場があったからといって決してその町に住むのではなくて、みんな回りから来ているわけです。それで佐久市などでは渋滞が起きるわけです。だから、県としても平均的ではなく、可能性のある佐久市に大規模な企業をもっと積極的に誘致して、知恵の問題であると思えますがそこから生まれる財産をそれぞれの地域がどう活かすかが大事であると思っております。

それともう一つは軽井沢の観光の力をどう活かすかということです。軽井沢の観光の力を活かすようにもっとそこに特化して力を入れたほうが良いと思えます。それによっ

て軽井沢がいろいろなイベント等をやったときに、それぞれの市町村がどのように関わるのか、そういう形で軽井沢の力というのを活用するべきだと思います。不思議なのが、北軽井沢、南軽井沢、東軽井沢とありますが、西軽井沢、軽井沢というのは御代田町で終わってしまっています。例えば、軽井沢工場とか、西軽井沢店とかです。私が一番遠いところで、軽井沢工場と見たのは佐久市の平賀にある明治乳業の工場です。

私は、お金がかからないからもっと佐久市のお店でもどんどん軽井沢の名前を使ったほうが良いと思います。我々が「軽井沢」を広げていけばよいのではないのでしょうか。そういう風にして佐久地域がもっている大きな二つの力をもっともっと活用すべきだと思っております。そのためにも県としても我々市町村としても力を入れていけるといいと思います。

御代田町では大規模な宅地分譲を計画していますが、先ほど申し上げたようなことを見越して、佐久市に大きな工場ができて御代田町にも住んでいただけるよう準備を進めているところです。軽井沢町としても観光が発展してホテルやお店が繁盛すれば、その人たちは御代田町に住んでいただければそれでよいので、だから財産の活かし方を自分たちの町でどのように活かしていくのかということが我々としては、知恵のいるところかなと思っています。

○ 米村 立科町長

この佐久地域振興局が新たにでき局長に来ていただいて、非常にこれからどのような動きをしていくのかなというのがこの佐久広域の市町村の中でも非常にこれからどのように進むのかという議論があったということを記憶しております。

その中で、先ほど佐久の地域振興局企画振興課長さんからお話があった佐久地域としての目指す方向性を5つ出していただいています。いろいろと今要望だとかというよりも、どちらかというとうどういう風にしていこうかなというのは、各佐久地域2市5町4村の中で構成をされていますけれども、そのそれぞれの行政が今取り組んでいる問題があると、私は思っております。その中で、佐久地域振興局が出した5つのテーマに基づいて、どういう風にそれを協力していきながら広げていくことができるのかなという観点で少しお話ししたいと思います。

立科町は地消地産と健康を核とした地域づくりということでいくと、立科町は茅野市と境になる白樺湖周遊のジョギングロードというものを諏訪建設事務所、佐久建設事務所、茅野市、立科町というような行政やまわりの事業者の皆様と協力していま整備を進めています、この29年度に完成して、完成するだけでなく、これをいかに活かして

いくかということが、これからの私たちのテーマだと思っております。そういう中で、そういうものを核として、地消地産のものを取り入れていながら地元食材を宿泊施設などで提供できるような仕組みづくりをしていかなければならないと思っております。白樺湖活性化協議会、信州ビーナスライン連携協議会といった行政の枠を超えた中で、その構成をしているエリアの皆様が、力をあわせて進めていくということに対して、県にも協力していながら各構成市町村がしっかりと方向性を出していくことが求められていることではないかと思っております。今も信州DCの中で、美しい星空をテーマとした観光地づくりということで、私たちも二つの町営のスキー場を抱えております。非常にスキー場の問題は頭をもたげている問題ですけれども、そういう中で夏場も運行しているゴンドラリフトを使った、ナイトゴンドラの運用などを考えているのですが、なかなか理解が得られないところもあります。しかし、まわりでホテル等の宿泊施設を営業されている皆様から強い要望がある中で、索道事業者として、そういうものにどうやって取り組んでいくのかをいま考えていかなければならないと考えております。

また、移住・二地域居住という形は、立科町も今空き家対策ということで非常に頭が痛い問題でもあり、なかなか成果が出ていないという問題になっています。すぐに利用できるような空き家が少ないため、空き家のリフォーム活用などに町また県の皆様にも知恵をお聞きしながら進めていかなければならないと思っております。またその移住・二地域居住ということを視野に入れた政策として、今年度から国の事業を使って取り組もうとしたテレワーク事業も総務省から採択をいただけませんでした。じゃあそれでやめてしまうのかという中で、町と県のお試し長野テレワーク事業に着手をしていながら、情報関連業者の移住者や町出身のUターン、事業の実施による町民の雇用も見据えた中で、今後の展開に向けてノウハウの蓄積をしていくことで施策を進めていきたいと考えています。先ほど、知事が言われた地域交通の確保というのは、私たち中山間地ではこれから少子高齢化というなかで、どうしても車を持っていなければ生活ができない高齢者がいる一方で、運転免許の返納が少しずつ増えています。高齢者の足の確保ということで、非常に頭が痛い問題というか、積極的に取り組んでいかなければならない問題であると考えております。町営バスを運行していますけれども、廃止路線のバス運行の補助もして、年々、国の補助金も削減されている中で、町の財政を少しずつ圧迫しているわけですが、本当に交通の確保・足の確保ということは、本当に必要性を帯びていると思います。町からも年間約2,000万円を超えるほどの補助を続けている状態ですが、そういう中で何か良いアイデアがないかと、県が行う地域交通のベストミックス構築事業のアドバイザーの派遣をお願いしていますので、是非そういう中で助言や指導をいた

だきたいと思っております。

本当に、若い人たちが夢を描けるような街づくりをしていきたいという中で、今日、日本サッカー協会のほうから来る「夢先生プロジェクト」で、小学校、中学校と今日と明日という形の中で、とにかく子どもたちに夢を持ってもらえるような計画を今進めております。去年もやりましたが非常に好評で、子どもたちも喜んでいると思うとともに学校の先生からも好評をいただきました。こういうふう子どもたちと接していけば、子どもたちが、いきいきと授業に取り組んでいく姿勢が見えるのだと感じ、本当にいろいろなところが、いろいろな授業を展開していく中で協力をしてきている状態だと思っております。そういった情報をいかにキャッチしていきながら、自分たちの町の発展、地域の発展に寄与できるようなかたちで取り組んでいくことが、いま行政が求められていることだと思えますし、県にもお願いをしていきながら、続けていかなければならないと思っております。ただ、県も財政が厳しい中であって、そんなにふんだんに予算を使うということにはできないと思っております。ですから、県ができないのであれば、自分たちの町村が覚悟を決めて、その事業に取り組んでいく姿勢が必要だと思っております。そういう中で、地元の行政、また県と国の協力のベストミックスの中で進めていくことが、これから生き残っていく一つの方法かなと考えております。県が本当に取り組んでいる、今日の新聞の中でもいろいろの提案がでていたと思いますが、本当に、産業誘致や、投資促進へ連携していきたいと県と市町村との協議の場で確認したという記事もありました。その中で、長和町長が中山間地で製造の誘致は限界があると思っていたが、観光や食品産業も視野に入れており、心強いと歓迎をしたという記事が載っていました。本当にいろいろな中で、町が企業誘致、いろいろな産業をしていくという中でも非常にハードルが高い部分を見据えた中で進めていくという県の姿勢、またそういうものに情報をキャッチしていきながら、各市町村が取り組んでいくということは覚悟が必要なのかなと思っております。いろいろとICT教育促進、また子どもの医療費拡大とかいろいろと問題があると思っております。それはやはり県、国にお願いするのではなくて、地方の私たち行政もしっかりと覚悟を決めた中で、その住民の生活の確保、またこれからこの地域で本当に最後まで暮らせる町づくり、地域づくりをしていくことが、自分たちの町だけではなくてこの佐久地域全体で考えるということが必要だと思っております。そういうなかでも佐久地域振興局、井出局長を中心として、これからどんどんいろいろなテーマや案を出していきながら私たちも協力していくことが必要だと考えております。

○ 阿部 知事

ありがとうございました。西軽井沢を広げてはという提案ですが、いつもテレビを見ていると「軽井沢です」といって、北軽井沢が出ていて群馬県側の話ばかりやられると、正直ちょっといかなものかと思うことがあるのですが、今日軽井沢町長いらっしゃらないですけど、佐久地域だけではなくて軽井沢に来ている人たちあるいは軽井沢に別荘を持ったりしている人たちを、どうやってもう一歩二歩、長野県内に踏み入れてもらうようにするかというのは、大きなテーマだと私も思っておりますので是非に一緒に考えたいと思います。地域のブランド化の話は、北軽井沢ばかり取り上げられないように是非一緒に取り組んでいきたいと考えております。

佐久市に工場を作って、そこに通勤する人たちの受け皿をつくるという役割分担としてはどうかという話ですが、そういう考え方があると思いますし、他の地域でも「企業立地はいいから、企業に通う人たちが住む場所がよい」と仰っている市町村長いらっしゃるので、地域内での分担の在り方ということをおこの際考えるということも大事だと思います。例えば佐久市に工場をという話がでましたが、佐久市長いかがでしょうか。そういう分担論があった方がよいとかありますか。

○ 柳田 佐久市長

分担論もあるのだと思います。けど、その中で住むところを「さあどうぞ」というのはなかなか言いづらい話だなと思います。働くところと暮らすところ、住むところが接近している職住接近も一つだと思いますし、実際にはそういうことが現状に起きているというのがありますので、そういう考え方も一つの受け止めであるのかなと思います。

御代田町はすごくぎゅっとした町なので、とても効率が良いところですし、軽井沢郊外として、とても魅力があるところだと思います。そういう現象が実際に起きてくるということはあるのかもしれないと思っております。こういう場で他の市町村の計画を耳にするのも良い機会だと思えました。

○ 阿部 知事

私も色々な地域で話していて、市町村の皆様によっていただくことと、広域で市町村同士で考えてもらうことと、一部重なりますが、県がやらなければいけないことというのをある程度しっかり整理していくことも必要だと思っております。例えば昨日も投資の話、企業立地の話が出ましたが、市町村長の皆様方の多くからは、「なかなか町村単位での産業政策難しいよね。」というお話が出ています。そうすると、広域なり、県

で産業の話を考えていかなければならないと思います。産業の話と雇用の人材確保の話は表裏になっていて、そうするとどういう形で住んでもらうかということは、基本的に市町村の皆様を考えてもらう話だと思っておりますが、広域で産業政策を考えたときに人手の確保とか、住まいの確保というのが、産業政策の表裏で広域的に考えていかなければならないと部分も相当あるなと昨日の県と市町村との協議の場で話していて感じました。そのあたりは井出局長もずっと私の隣で聞いていたので、よく意識して少し今度の計画の中では考えていってもらいたいなと思います。

立科町長からの地域交通や観光の話は、我々も正直いっても模索しながらの状況ですので、県と市町村で一緒に考えなければいけないテーマだと思っております。是非地消地産、私は地産地消という概念を中心にしていますが、地消地産の推進というのは、市町村単位で難しい部分もあると思うので、広域とか圏域だとか、是非そういうところでしっかり考えていきたいなと思っております。

残り時間も少なくなってきましたが、何か皆様のほうからありますか。小諸市長、最初仰らなかったことがあるということですが、いかがですか。

○ 小泉 小諸市長

苦言を敢えて呈すれば、今日2時間の時間の中で、もっと絞って本当に意見交換ができる場だとか、意見発表だったり要望であったりということで、この2時間はすごく残念だという感想です。タイトルに戦略会議であるのであれば、もっと意見を戦わす、交わらせるような場面であって欲しかったなと思います。他の地域でどのようにやっているかわからないので、何とも言えないのですが、次やる機会があればお願いしたいと思っています。

○ 阿部 知事

そうですね。私もそこは少し良く考えなければならぬなと思います。結構言いつ放し、聞きっぱなしになりがちですので、本当はまとめなければなりません。他のところでは私が勝手にまとめたところもありますが、今回は時間もないし、いろいろ多岐に渡ったので、結構まとめにくい感じではあります。今日は問題提起をいただいたということで、地域編は我々が勝手に書き上げて終わりではないので、地域振興局長を中心に少し原案を作って、皆様とやり取りをさせていただきながら、取り組んでいきたいと思っております。

小諸市長おっしゃっていただいたことに関連して、冒頭、私が申し上げたことをもう

一回繰り返させていただくと、私と市町村長が会って話をする意味というのは、事務方が放っておいても粛々とやることを話してもほとんど意味が無いと思っております。そういう意味では、市町村長と私がこれでいこうという合意、意思決定することが本来重要な話であろうと思っております。今日のところは、こんな課題、あんな問題、こういう方向性ということで、出されておりますけど地域編は総花でない話をしていきたいと思っております。とかく、計画をつくると、これが落ちているのではないか、これも入れなくてはという意見がいっぱいでできますし、特に事務方は気を遣います。これを落としておくと、こういう分野から苦情がでるのではないかと相当気を遣いますので、みんなだんだん総花的な計画になっていくため、結局何をやろうとしているのかわからないとなってしまいます。むしろ色々なことをやっていきますし、県の総合計画ですので、一応全部書きます。ただ、地域編のところは是非総花的なものにしないで、この地域はこの方向で、これとこれとこれを優先順位つけて力を入れてやっていきましょうということが確認できなければ、あれもやります、これもやりますと5年かけて何をやっているのかわからないような地域編になってしまいますし、それでは作っても全く意味が無いと思っております。他の局で完成形に近いような形でこんなのでどうですか、というようなものを出してきた局があったので、終わった後に徹底的に削ぎ落とせと指示しています。こんなに、あれもこれもと入れてもダメだから、削ぐプロセスをやれと言っています。そういう観点で市町村長の皆様にも御協力をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○ 井出 地域振興局長

本日、様々な意見を頂戴しましたが、資料4で地域振興局のほうから示させていただいた5本の柱、方向性ということに関して反対だというお話は無かったと思いますので、それを基に地域振興局の方でも、それぞれの市町村の皆様とも、また個別にお話しをさせていただきながら、策定作業を進めさせていただきたいと思っております。

県全体としてどこでもやることについては、総合的な施策推進ということでしっかり書かせていただきますので、地域として力を入れることを書いていくという方向で策定させていただきたいと思っております。それでは、時間を超過いたしましたので、以上をもちまして、佐久地域戦略会議を終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。